高校生の観光事業構想コンテスト

観光甲子園 NEXT TOURISM CONTEST 2022

SDGs修学旅行部門

□□□□□□□ë□□É

タイトル

タイトル 10～20文字	時間×空間 四次元浪漫旅行

サブタイトル 20～30文字	～この旅路が持続可能な未来への《鍵》となりますように～

チーム情報

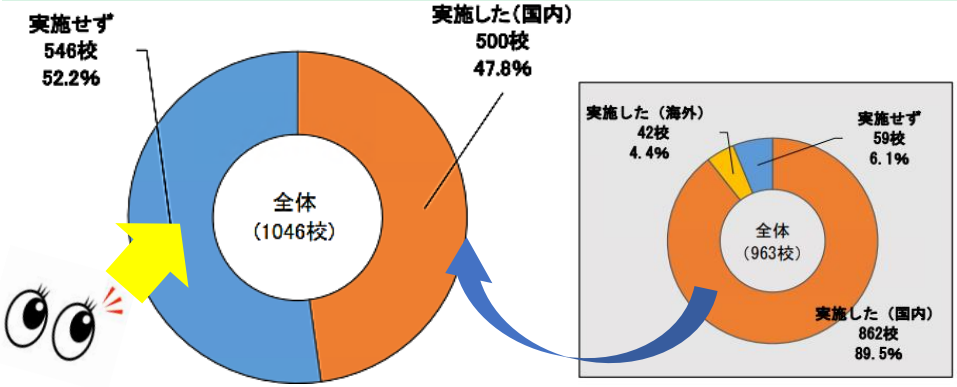
都道府県	大分県
高等学校名	大分県立宇佐高等学校
チーム名	大分県立宇佐高等学校 １年生チーム
担当教職員名	佐藤 義恵

メンバー名	学年	性別	氏　　名	担　　当	代表
メンバー①	1	女	小流　凛	企画・取材・スライド作成	
メンバー②	1	女	松浦　瑠夏	企画・取材・スライド作成	○
メンバー③	1	女	水江　香乃	取材・撮影スライド作成	
メンバー④	1	女	山田　瑠華	取材・撮影スライド作成	
メンバー⑤					

「時間×空間　四次元浪漫旅行」　→　私たちがこの旅を提案する理由

1　私たち、体験ロス‥

突然私たちの日常を奪った新型コロナウイルス。合唱祭、体育大会、文化祭、部活動、調理実習、職業体験あらゆる学びの場が消え去り、そして、黙食、リモート授業、三密回避の個別活動、あらゆるつながりが断ち切られた・・それが私たちの中学校時代だ。中でも最も大きな喪失は、最大の行事「修学旅行」の中止である。――高校生になった今、この喪失感は後遺症のように残り、ぽっかりと心に穴が開いたようだ。だからこそ、私たちは提案する。人と人とがつながる体験を。face to faceで語り合える旅を。さらには地域や社会、そして世界中との対話に満ちた感動体験を。――私たちの地球、宇宙への夢にあふれる私たちの修学旅行プランを。



左：日本修学旅行協会「2020年度実施修学旅行の実態とまとめ(中学校)」
　　における「修学旅行の実施状況」より(アフター・コロナ)
右：2019年度同調査(ビフォー・コロナ)

2　そもそも「修学旅行」って‥？

文部科学省の告示によると、修学旅行の目的は「**平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと**」とされる。私たちはまず、この目的を次のように読み替える作業から始めた。「**コロナ禍で縮こまって来た私たちは、画面ごしではない世界を自分の目で、耳で確かめ、直に触れて、様々な価値観と出会いたい。その経験は失われた繋がりを取り戻す《鍵》となり、思いがけない希望の扉(可能性)を開くにちがいない**」　このように旅の目的を掲げ、私たちのオリジナルプラン「時間×空間 四次元浪漫旅行 ～この旅路が持続可能な未来への《鍵》となりますように～」を提案する。

3　世界に目をむけると・・そしてSDGs

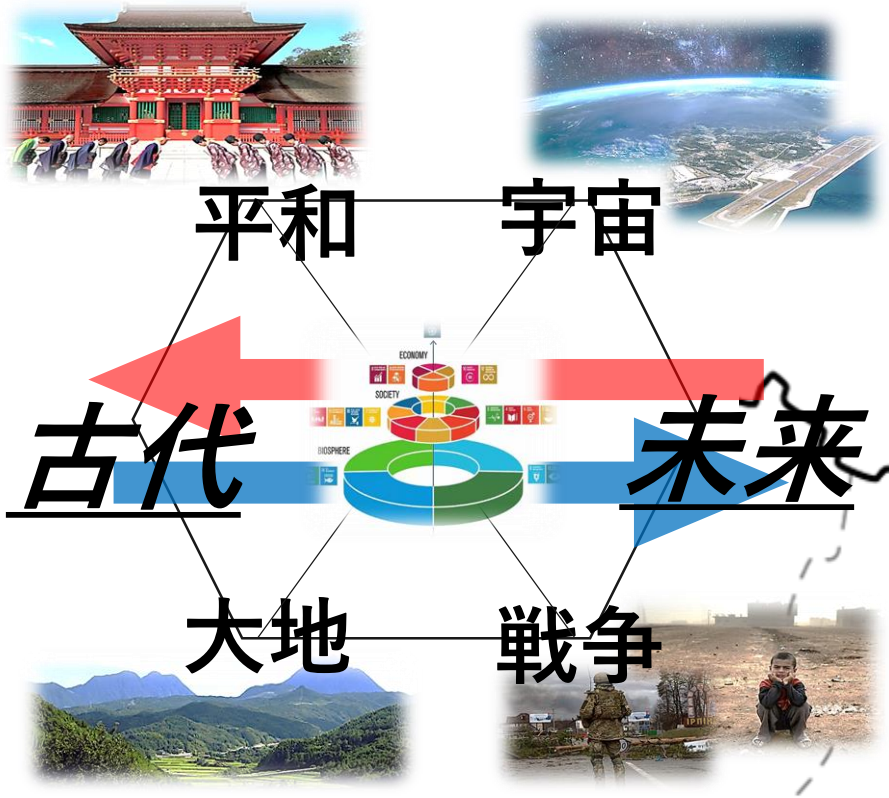
現在地球上では絶え間なく争いが続いている。日々のニュースは、大国ロシアによるウクライナ侵攻を伝え、世界各地の内戦（シリア、イエメン他）で傷ついた人々を次々に映し出す（空撃で破壊された教室に立ちすくむ子どもたち、長期化する紛争に引き裂かれていく家族・・）。国同士の争いは格差を深刻にし、弱者を追い詰める。教育の場でも医療の場でも、犠牲を強いられるのは、やはり子どもたちであり、老人たちだ。経済優先の人間中心主義はこの地球を蝕み続け、温暖化に歯止めがかからない現状である。しかし、希望を捨ててはならない。わずか15歳の環境活動家や17歳で女性教育の権利獲得に声をあげる人権活動家の「率直さ」は世界に衝撃を与えたのだ。一人の小さな声が世界の人々に届いたのだ。

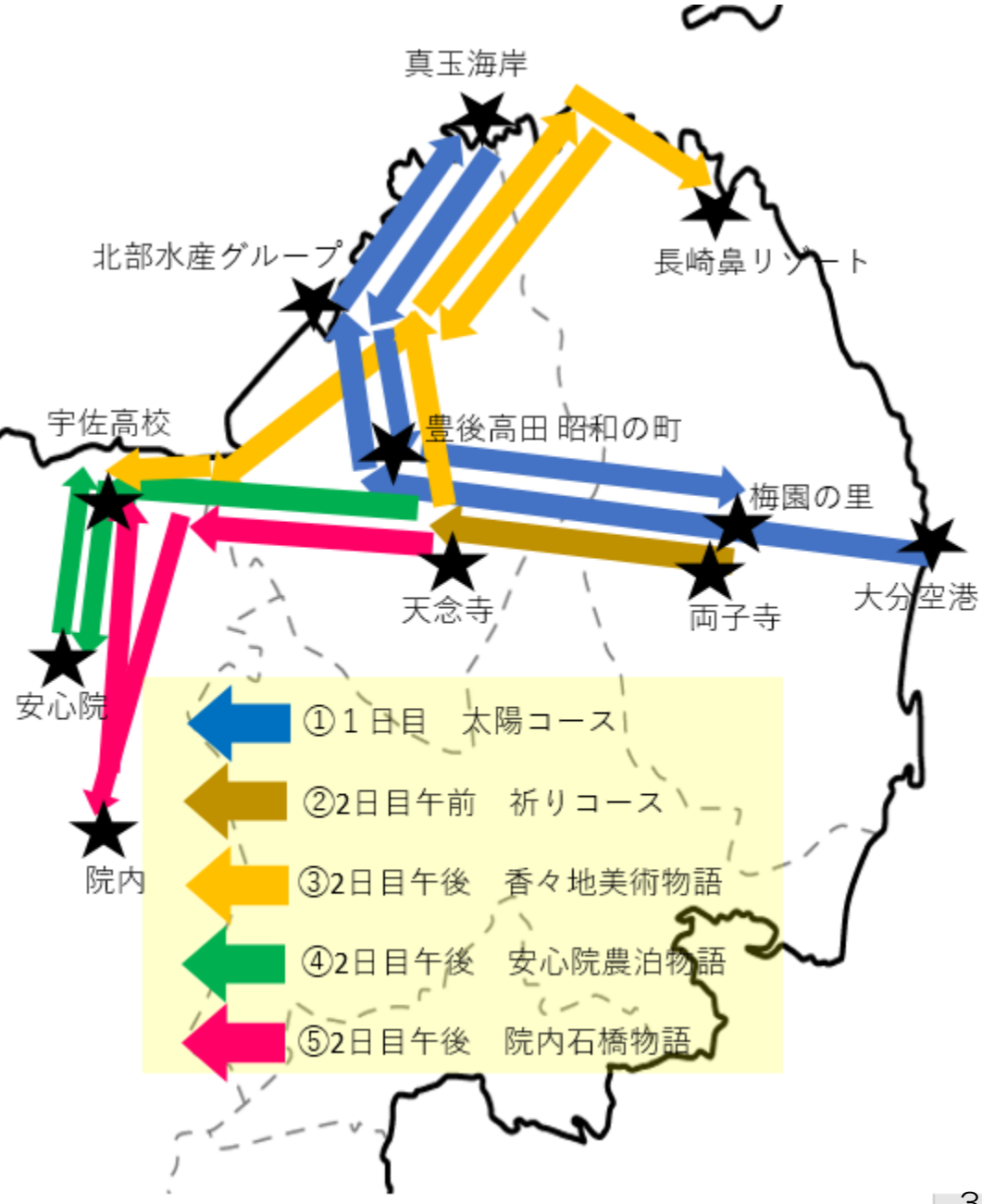
私たちも願う。誰一人取り残さない、ほっとかない、笑顔あふれる幸福な世界を。その「前文」にも謳われているように、私たちに求められているのは「大胆かつ変革的な発想・手段」であり、従来の修学旅行にはない、私たちらしい唯一無二のプランの提案だ。

4　SDGs wedding cake と「四次元浪漫旅行」

「SDGs wedding cake」は17の目標が３次元構造で示されたものであるが、私たちの修学旅行案は、「四次元」の進化バージョンである。つまり、２次元の旅行ルート（国東半島・宇佐地域）に、そこでしかできない様々な「体験」を組み入れて３次元化し、土地の持つ「物語(過去)」や、私たちに託された「希望(未来)」の４次元を旅するプランである。これを「SDGs視点」で読み替えれば、個別に独立し整然と並んだ17のゴール（２次元）では見えてこなかった「つながり」が、３次元化することで見えてくる。いわば、現実世界の「縮図」として立ち現れてくるのだ。そして持続可能な世界を可能にする一つ一つのゴールは、互いに関連していることに気づく。この３層の「wedding cake」には中心を貫く「パートナーシップ(目標17)」が欠かせず、このゴールが「希望のキャンドルのよう」であり、「SDGs達成を祝うメモリアルキャンドル」の役割を果たす。私たちはさらに、このイメージに時間軸を加え、先人たちの築き上げた持続可能な知恵、伝統文化、その土地の物語を訪ね歩く旅とした。一方で宇宙規模で未来を見据えた持続可能な最先端技術や、近未来アートに触れる「SDGs浪漫旅行」としてここに提案する。

「時間×空間　四次元浪漫旅行」　×　３日間のルート





１日目①　太陽コース ～太陽とともに東から西へ国東半島横断～

ようこそ！**大分県国東半島・宇佐地域**へ！旅の始まりは、**アジア初水平型宇宙港**で注目される大分空港から。大分県はアメリカの民間企業「Virgin Orbit」とパートナーシップを結び、大分空港から人工衛星の打ち上げを目指している(2023年打ち上げ予定。アジアにおけるハブ宇宙港化を目指す)。大分県内の中小企業(部品製造・燃料・食・サービス等)は、宇宙関連ビジネスに湧き、まさに「**宇宙県オオイタ**」として全力発展中である。そこで、本旅行では、大分県の**先端技術挑戦課**の方(宇宙港化の中核)や、「㈱minsora」の**宇宙ビジネスナビゲーター**の方による**講演会**(SDGs視点の宇宙港開発)を通して**持続可能なイノベーション**のあり方を学ぶ。その他空港では、各種の宇宙体験を実施(宇宙食試食・空の駅・３Ｄホログラム)。

続いて、昭和30年代のノスタルジーをコンセプトにした「**昭和の町** (毎年40万人が訪れる観光スポット)」では、駄菓子屋(昭和ロマン蔵)や学校給食(昭和の町商店街)を通して**60年前にタイムスリップ**。豊後高田市は、2001年に地域振興の資源として「シャッター街」であったさびれた商店街にあえてスポットを当てて(逆手に取り)町おこしをし、「昭和の町」の賑わいを取り戻すことに成功した。この実績は全国から注目され、「今あるもの」の利活用の好例として見直された。まさに「**持続可能な観光業**」の実践である。

さらにSDGs学習を深めるために「**農林水産研究指導センター (北部水産グループ)**」を訪れる。ここでは海洋観測(有害プランクトンの監視や定期的な水質観測・水質調査)の目的・方法を学び、施設・設備の見学や魚の解剖実習を体感できる。その中で「水の惑星」である地球、「魚のゆりかご」としての国東半島沿岸の豊かさに気づき、その保全活動に共感する人は多いに違いない。

夕日を追いかけるように「**真玉海岸**」へ。干潮時には、「**日本の夕日百選**」の千変万化の輝きをカメラに収めようと、日本各地から多くの写真愛好家が押し寄せる。刻一刻と移ろう夕日が描く「**縞模様**」は、自然がつくりだす究極の美である（昨年３月に**国の登録記念物 名勝地関係**にも登録される）。ゆっくり染まる色彩のグラデーションを眺めながら、特産の「**真玉すいか**」を食す。

宿は「**国東半島六郷山荘 梅園の里**」へ。夕食には「**高田蕎麦**」を楽しみたい。今では西日本有数の生産地となった豊後高田市だが、蕎麦特産化の歴史は新しく、平成14年から「昭和の町」と足並みを揃える形で一から始められた(SDGs11)。休耕田を活かした春蕎麦の栽培、加工、蕎麦職人の育成(職人育成施設「そば打ち道場」設立)、店舗の開業補佐にいたる全ての過程を市がサポートし、積極的に**６次産業化**を推し進めたのだ(SDGs12)。この「all 高田」の蕎麦を味わうことで旅運が上ること、間違いなしだ。

食後のお楽しみは、宿に併設する豊後聖人といわれる「**三浦梅園**(1723～1789)」ゆかりの**「天球館**」である。梅園は、**東洋思想**の先駆者であり、天地万物の営みの**天文観測者**、**条理学の提唱者**でもあった。「天球館」の**大型天体望遠鏡**(大分県最大)で星々を観測し、宇宙のつぶやきに耳を澄ませる。この地球も宇宙に浮かぶ美しい星であり、その輝きが消えぬよう、私たちの手で守らねばならぬとの思いを強くする夜である。

体験ツアー料金	一人当たり	合計（90人）
宇宙食体験	300円	27,000円
昭和の町 飲食料金	700円	63,000円
真玉すいか	200円	18,000円
１泊２食 宿泊料金（梅園の里）	9,680円	871,200円
合　計	10,880円	979,200円

２日目①　祈りコース ～六郷満山 信仰の道～

二日目のスタートは、祈りの道から。古来、国東半島は「**六郷満山ほとけの里**」として人々の信仰を集めてきた。そのベースには、宇佐神宮の庇護の下で形作られた「**神仏習合**」の独特な信仰文化・歴史がある。本修学旅行では、仏教伝来当時の信仰のかたちを今に伝える**山岳修験道**をたどり、現在世界各地の人々を苦しめている**災禍（世界紛争、コロナ禍、自然災害）**に心からの祈りを捧げたい。

まず訪れるのは、国東半島の中央に聳える両子山(721ｍ)中腹にある古刹「**天台宗別格本山　両子寺**」だ。**六郷満山**(半島一帯185の寺院集団)の総持寺、山岳修行の根本道場としての威厳を備え、1300年の時を経て世の「**安寧秩序**」や「**除災招福**」、そして「**病気平癒**」、「**無病息災**」のために人々が一心に手を合わせて来た場所だ。寺院内には貴重な文化財も数多い。それらを直に目にし、仏像の声に耳を傾けることで、千年の時を経て守り伝えられた文化資源を**次世代に受け渡す責任**に襟を正すことができる(SDGs11-4)。近年貴重な**文化財の盗難や破損、落書き**が相次ぎ、各地で報じられているが、本旅行を通して私たち若い世代が持続可能な未来のために、地元の文化財を知って語り継ぎ、**保全のための具体的な行動**を起こせるようになれたらすばらしい。また、「両子寺」は「**全国森林浴の森百選**」の指定地であり、古代から人の暮らしと文化に結び付いた豊かな森が広がる。「百選」認定の目的に「次の世代に日本の森林を引き継いでいく」と謳われるが、この**信仰の森**は千年の時を経て守られてきた貴重な資源だ。自然を崇拝し「神仏」の化身であるとひれ伏した古代人のように、今を生きる私たちも驕り高ぶることなく、しっかりと受け継ぎ、受け渡していかねばならない(SDGs15-2)

続いて、平安時代より現在まで伝わる「修正鬼会」(国の重要無形民俗文化財)で有名な「**長岩屋山　天念寺**」を訪ねる。ここは、伝統文化財の「**伝習施設**」が併設され、貴重な文化財が数多く展示されている名刹だが、近年話題を呼ぶのは「**体感型修験道**」だ。ゴーグルとヘッドフォンを装着する**VR体験**を通して、過酷な山岳修行を**五感で味わう**ことができる。修験者さながらに、３６０度のパノラマ風景の中を行き、高く切り立った尾根をわたり、法螺貝を鳴り響かす臨場感たっぷりの体験である。**最先端技術（VR）によって古代の信仰のかたちが蘇る**。現代人の脳と心を揺さぶり、古代信仰の力強さに胸打たれるに違いない。

さらに国東半島の誇る名刹、古刹を巡る。まずは、「平等院鳳凰堂」や「中尊寺金色堂」と並び称される日本三阿弥陀堂のひとつ、そして現存する「九州最古の木造建築物」である「**蓮華山　富貴寺**」だ。四季折々の色にその姿は浮かび上がる(春の桜、夏の緑、秋の紅、冬の雪)。まさに至宝である。ここからほど近くには「**田染荘**」が広がっている。ここは古代より宇佐神宮の荘園として守られてきた“**神の田**”であり、「**国東半島宇佐地域世界農業遺産**」認定のきっかけとなった生きた荘園遺跡(水を涵養するクヌギ林とため池を含む)でもある。長い時間をかけて自然と対話しながらつくりあげた、先人たちの循環型農業モデルから、私たちが学び取り、気づかされることは多いはずだ。

その他、“花の寺”「**長安寺**」や“鬼が一夜にして積み上げた”とされる「**熊野摩崖仏**」(国の重要文化財)などの見どころも満載だ。これらの寺々を巡りながら、それぞれの土地の持つ歴史と物語に耳を澄ませ、思いを馳せてほしい。私たちの感性を鈍らせることなく研ぎ澄ませていきたい。

8:00

天台宗別格本山
両子寺

9:00

天念寺の伝統行事
「峯入り」「修正鬼会」

10:00

花の寺「長安寺」

国宝「富貴寺」

10:40

重文「熊野摩崖仏」

重文「田染荘」

12:00

体験ツアー料金	一人当たり	合計（90人）
天念寺資料館 入館料	150円	13,500円
合　計	150円	13,500円

2日目②Aコース 香々地美術物語 ～最先端アート de アドベンチャーツーリズム～

大分県豊後高田市真玉海岸には、世界的に活躍するウルトラテクノロジスト集団「チームラボ」の常設体験展示スペース「**チームラボギャラリー真玉海岸**」がある。ここで楽しめるのは、国東半島を彩る四季折々の花々のデジタルアート作品『花と人、コントロールできないけれども、共に生きる－Kunisaki Peninsula』である。そして、真玉海岸から香々地町に向かう人道トンネルもアートスポットとなっている。「**恋叶トンネル**」と呼ばれるこのトンネルには、全国公募で選ばれた「恋叶デザイン」をもとに地元の人々が制作した壁画アートが描かれ、訪れる人たちに「恋叶スポット」として大人気だ。海岸沿いをいくと、宿泊場所の「**花とアートの岬 長崎鼻リゾートキャンプ場**」が見えてくる。国東半島の突端にある「**長崎鼻**」は、近年地域おこし協力隊の活動拠点となり、「見る」「聞く」「触れる」「香る」「食べる」の「五感リゾート」として熱い。隊員自慢の手作りトレーラーサウナやアクティビティコースも充実し、最近ではワーケーション設備も整って、話題のスペースである。本提案の修学旅行では、キャンプ場内の「**不均質な自然と人の美術館**」(2020年オープン)を訪れ、アーティスト藤岡定 氏のプロデュースした「均質化されない自然の変化に富んだ体験と感動を味わう空間」を鑑賞する。作品はSDGs思考に富んだ最先端の「Art & Technology」の具現化であり、現代人の心の琴線に触れる作品群に出会える。 世界的に有名なアーティストたち（オノ・ヨーコ、チェ・ジョンファ他）もこの地をテーマに作品を制作した(「国東半島アートプロジェクト2012春期 香々地プロジェクト」)。「**長崎鼻**」の岬での楽しみはまだある。休耕田や農作放棄地を再生させるべく地元の方々が根気強く四季折々の花を育て、広大な花畑に仕立て上げたのだ。今ではSNS映えスポット（2000万本の菜の花、140万本のひまわり、1800万本のコスモス）となり、**花の岬**は県内外から多くの人を呼び寄せる一大観光地である。これはいわゆる「花の社会化」の成功例であり、持続可能な地域振興に有効な手立てだといえる。さらに、ひまわりや菜の花の種子から採れた植物油の加工販売により、６次産業化にも成功している。

国東半島の内陸地では、独自の伝統産業「七島藺（カヤツリグサ科で畳表の材料となる）」が受け継がれている。七島藺は、1964年の東京オリンピック柔道会場でも使用されたほどの高品質であるが、現在は後継者不足が深刻である。そこで町では10年前より立ち上げられた「七島藺マイスタークラブ」の方々が、「七島藺文化産業」の継承のために工芸品のワークショップを開いたり、手軽に楽しめる雑貨を制作販売したりして、その普及に努めている。

この地で採れる食材もユニークだ。真玉海岸の広い**干潟**に生息するマテ貝は、塩分濃度に反応し、砂からニョキニョキと飛び出す性質があり、子どもたちに人気である。近年は安定的な観光産業の資源にしようと干拓地での「ムール貝養殖」にも乗り出し、キャンプ場や道の駅での販売や、ふるさと納税の返礼品として注目されている。

費　用	一人当たり	合計（30人）
チームラボギャラリー真玉海岸	220円	6,600円
不均質な自然と人の美術館	700円	21,000円
七島藺コースター作り	500円	15,000円
宿泊料金（長崎鼻リゾートキャンプ場）	4,350円	130,000円
食費	2,500円	75,000円
合　計	8,270円	247,600円

2日目②Bコース 安心院農泊物語　～農泊発祥の地 de グリーンツーリズム～

「**農泊**」とは農村の民家に〈泊〉まり、その地域ならではの伝統的な暮らしを、さまざまな〈食〉や〈体験〉を通して味わう旅」のこと。大分県宇佐市安心院町は、『**農泊発祥の地**』としておよそ25年にわたってその道を切り拓き、全国から注目を集めてきた。一般的な農泊のイメージは、“農家に泊まる”という宿泊場所にとどまったものだが、安心院の農泊は一味違ってもっと奥が深い。昔話に出てくるような古民家で、畑自慢の「お父さん」が手塩にかけた野菜や果物、それをふんだんに使って料理上手な「お母さん」が腕を振るう。さらに食卓に並ぶのは、「おじいちゃん」の椎茸(大分県特産)や「おばあちゃん」直伝のゆず胡椒(大分県特産)だ。この温かなもてなしは、まさに安心院版「**スローフード**」である。手入れの行き届いた山里で、心地よい風に吹かれながら、農村の知恵と工夫に富んだ「**スローライフ**」を五感で味わう。それがSDGsを学ぶ「安心院物語」である。

国東半島宇佐地域は、平成25年に「**世界農業遺産**」に認定された伝統的農業地帯である。中でも西日本有数のぶどうの産地である安心院盆地は、全国に先駆けて「**6次産業化**」を推し進めてきた。まず町ぐるみで着手したのは、若い世代の「**Uターン家族**」や「**Ｉターン移住者**」を受け入れ（先細りする農業の救世主として）である。そして「**安心院フェア『葡萄酒まつり』**」をはじめとする手作りのイベントを立ち上げ、持続可能な産業化に成功したのだ。現在その魅力は若い農家によって次々と**SNSで発信**され(「ドリームファーマーズちゃんねる」)、**官学(大分大学)共同プロジェクト**(「農村ベース大学」)の始動にまで広がりを見せている。

安心院の民家を訪れる楽しみはまだある。伝統的景観「**鏝絵**」を活かした見学ツアーや、害獣駆除の有効利用工房「**ジビエファクトリー**」の見学ツアー等だ。これらの古くて新しい農業文化の価値が注目され、現在では**年間5000人もの教育旅行**や**海外(韓国他)からの視察**を受け入れている(コロナ禍前)。

この地の豊かさに惹かれ、根を下ろした大企業の存在も忘れてはならない(㈱三和酒類『安心院葡萄酒工房』)。今年の５月には「辛島虚空乃蔵」も新たにオープンし、発酵・醸造文化の発信地「町の駅」として始動している。その根本にあるのはSDGs思考であり、「**つくる責任**」(SDGs12)を形にした施設となっている(製品の製造過程で生じる副産物の商品化、廃棄物削減、環境保全)。

「**食品ロス**」に心痛める若い世代は多い。このコースを巡ることで農村の知恵と伝統技術、そして何より町の人々のおおらかな**バイタリティー(実行力)**に触れ、身近な「食」「暮らし」を見つめ直すきっかけにしてほしい。

辛島虚空乃蔵
世界へ『麹と発酵』の魅力を発信　13:00

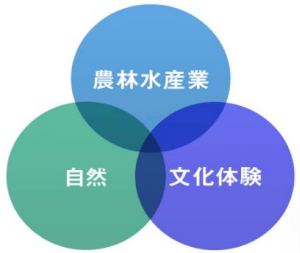
14:30

王様のぶどう旅行村農園
自然受粉栽培のぶどう

ジビエBBQ

16:30

鏝絵
伝統的景観を見学す



（日本アドベンチャーツーリズム協議会より抜粋）

15:30

安心院すっぽん養殖場
安心院に湧き出る温泉を利用して養殖

民泊（発祥の地 安心院にて）

18:30

時枝仁子【ﾄｷｴﾀﾞ ﾏｻｺ】さん　百年乃家ときえだの「お母さん」
平成8年3月、NPO法人安心院町グリーンツーリズム研究会の発足時より同研究会に参加。
平成19年度「農林漁家民宿おかあさん100選」に認定。

費　用	一人当たり	合計（30人）
宿泊料金(百年乃家ときえだ他)	2,000円	60,000円
ジビエBBQ	1,500円	45,000円
王様のぶどう旅行村農園	1,200円	36,000円
鏝絵見学(1時間)	1,000円	30,000円
合計	5,700円	171,000円

2日目②Cコース 院内石橋物語　～日本一の石橋の町deエコツーリズム～

大分県宇佐市院内町には、全75基の**石橋**がある(「日本一の石橋の町いんない」)。そのうちの64基は美しい**アーチ橋**で、人々を魅了してきた。院内町は内陸地のため、**深い渓谷**が続く不便な地形である。そのため昔から人々は**橋をかける**ことに情熱を注ぎ、頑丈でびくともしない石の橋を数多く造り上げた。それは一方で人々の**心をつなぐ架け橋**となっていった(SDGs12)。

本コースはまず、この場所を訪ねる。そこで石橋造りの名人「**松田新之助**」と出会い、不屈の精神を学ぶことからスタートする。石橋の**鑑賞ポイント**について語っているのは、ドイツ文学者でエッセイストの**池内紀 氏**だ。院内町に点在する様々な石橋をたどった池内氏は、その美について「コンピューターにはまねのできない造形美」だとして、「見飽きない味がある。どっしりとしていても重々しくはなく、男っぽい石のあいだからなの野の花がうす緑をのぞかせていて、何とも繊細なエロティシズムをもっているのだ」と表現する(『宇佐学シリーズ③ 石橋王と呼ばれた男 松田新之助』)。石橋めぐりには**レンタサイクル**が便利だ。電動アシスト自転車で間近に「**鳥居橋**」(別名「石橋の貴婦人」)をはじめとする個性豊かな石橋の数々を鑑賞しよう。

院内町と「水」は切り離せない。宇佐市の清らかな**水源**は、この**院内に点在する四瀑**（いずれも名瀑である「西椎屋の滝」「余の滝」「東椎屋の滝」「福貴野の滝」）からの恵みである。名水に潤う院内は、天然記念物である**オオサンショウウオの生息地**の南限（九州唯一の生息地）とされる。古くからこの地域の人々は**生態系の保全に配慮した水辺づくり**に努めてきた(SDGs6-6・15-1)。町ぐるみで化学肥料や農薬を制限し、水環境に負荷をかけない努力を重ねたのだ。

豊かな水資源の体感スポットはなんといっても「**岳切渓谷**」である。ここは、自然林に囲まれた約2kmの**水流遊歩道**が続く全国でも珍しい渓谷である。夏場にはキャンプ場が開かれ、自然を満喫できる。この清冽な環境に引き寄せられる若者や専門家も多く、近年では大分県にUターンして院内の地で「**無泥どじょう**」の研究に取り組み、産業化に成功した例もある。これは環境にやさしいどじょうの養殖方法であり、SDGs思考だといえる。現在「無泥どじょう」は院内の特産として、全国からの注文が後を絶たない。また、「どじょうの棲める環境を日本中に取り戻す」目的で立ち上げられた(H17)「おおいたどじょう村塾」の運動とも相まって、「どじょう」は大分県の関心ワードになっている。「岳切渓谷」における楽しみは、清流に耳を澄ませ、満点の星々を見上げる**キャンプ**である。手作りの竹箸や竹筒を手に流しそうめんを楽しみ、五感でこの地の豊かさを味わえるツアーである。

13:00

「院内町石橋群」

レンタルサイクル

（日本アドベンチャーリズム協議会より）

オオサンショウウオ 保護活動

15:00

「岳切渓谷」キャンプ場

17:00

道の駅「いんない」

15:30

無泥養殖どじょう

費　用	一人当たり	合計(30人)
宿泊料金（達切渓谷キャンプ場）	1,500円	45,000円
食費（そうめん、地産地消バーベキュー）	3,500円	105,000円
合　計	5,000円	150,000円

3日目①　宇佐高生とSDGs談義 *～旅の成果を披露しよう～*

宇佐神宮お膝元の**大分県立宇佐高等学校**では、自主的地域活動が盛んだ。「**インバウンドナビゲーター養成講座**(宇佐神宮の歴史的情報の英語ガイド)」や「**豊の国文化財ジュニア守り人養成講座**(大分県文化財の保護・活用の担い手育成)」、そして「**国東半島宇佐地域世界農業遺産聞き書き**（次世代への遺産継承活動)」といったグループ活動に携わる生徒も多い。

また、３年間を通して個人やグループで「**宇佐市探究**」に取り組み、それぞれの興味・関心、そして課題発見に基づいた探究活動をしている。「地域」や「持続可能な社会」といったテーマは共通しており、本修学旅行の学習成果を披露し、**意見交換・交流**するに相応しい高校(会場)である。

旅の学びは「**アウトプット**」することで、情報の**整理**が進み、より**記憶**にとどまりやすくなる。何より、足を運んだそれぞれの地域の**強み、魅力**を再認識し、SDGs思考から捉え直した諸課題(特に取り急ぎ解決に着手せねばならない問題)が明確になる。地元の高校(宇佐高校)にとってもよい刺激になるにちがいない。

さまざまな角度、立場からの語り合いを通して共有した思いを各自で持ち帰り、それぞれの地域に**伝え、広め、自らもできることから着手**することを誓い合う交流会になればすばらしい。

3日目②　旅の終止符 *～“いにしえ“と”いま”をつなぐ宇佐神宮～*

そして、**旅の終止符**は、なんといっても国宝「**宇佐神宮**」への参拝だ。宇佐神宮は**全国四万社余りある八幡宮の総本山**であり(725年創建)、年間140万人の参拝客が訪れる国東半島のランドマークである。本宮につづく玉砂利を一歩一歩踏みしめて、長い石段を上る。この道は、1300年前に古代人も歩んだ道だ。祈りをささげた道だ。この場所で、私たちも悠久の時に身をゆだねてきた「**四次元浪漫旅行**」を、あらためて振り返る。目を閉じて**信仰の歴史と文化**に想いを重ねる。これからの**未来の平和**、**誰一人取り残さない幸福**を願って、旅の幕を閉じよう。

宇佐神宮の耳より情報①

近年ホットなパワースポットとしても話題
→ 日本百名橋に選定された「呉橋」／EXILEのヒット祈願で注目された「大楠」／一生に一度の願い事を叶えてくれる「願掛け地蔵」／国宝・重文級の文化財が展示される「宝物館」

宇佐神宮の耳より情報②

参道に並ぶ飲食店では、宇佐名産の「大分味一ねぎ」をふんだんにつかった「ねぎ焼き」がおすすめ。お好み焼き風にうすく伸ばした生地に、「味一ねぎ」をてんこ盛りにして鉄板で焼いたもの。「味一ねぎ」は辛みや苦みがなく、やわらかくて甘いので食べやすい。

①　８：３０～１０：３０　宇佐高校生とのSDGs談義(宇佐高校)
②１０：５０～１２：３０　宇佐神宮参拝・参道にて昼食
③　　～１４：００　大分空港着

「時間×空間　四次元浪漫旅行」→この旅でつながったもの

1　私たちの「体験バンク」を満たそう

「時間 × 空間 四次元浪漫旅行」の提案をしてきたが、私たちはこの準備の過程で、多くの方からさまざまなチャンスを与えられ、そのサポートを受け、思わぬ出会い、発見ができた。中学時代までの「体験ロス」は、気づかぬうちに私たちの「好奇心のアンテナ」を錆びつかせていたのかもしれない。活動当初にはうまくつながらなかったことも（たとえば地域の課題やキーワード）、取材や話し合いを重ねるうちに、解決・改善の手立てをつかめるようになった。そして、何より私たちの「体験ロス」を満たしたのは、自分の目で見て、耳で聞いて、肌で感じた地域の方々の「熱さ」「エネルギー」である。自分の地域の強みを知り尽くし、愛おしみ、知恵を出し合って新しいアイデア、新しいつながりを生み出している。うかがった話の多くは、私たちも自分の知らないことばかりだった（生まれた地域なのに）。そういった熱い方々から語られる言葉には、私たちを元気にしてくれる確かな力がある。取材を通して自分たちのオリジナル体験が増えるたび、「体験バンク」がいっぱいに満たされていくような感じがした。だからこそ、この修学旅行に参加する高校生にも私たちと同じようにたくさんの貯金ならぬ「貯体験」をしてもらえるはずだ、と胸を張れる。ともに「体験バンク」を満たしたい。

2　「四次元」→「無限」の可能性

国東半島・宇佐地域の豊かさを「四次元」と考えた私たちのプランは、「SDGs」と親和性の高い案だと思う。「SDGs」は現状分析から積み上げていくゴールではなくて(フォアキャスティング）、未来にあるべき姿から逆算し、今何が足りないか、いつまでに何をしなければならないか考え、「現在」の行動を規定していく「バックキャスティング」である。私たちの「四次元浪漫旅行」も、過去を学び、遠い未来や宇宙の広がりに想いを馳せることで、今の私たちの立ち位置を再確認しようとするプランだと思う。遥かかなたの時や空間から俯瞰して、今、この場所で生きる私たちを映し出すのだ。そうすると不思議に、これまで目を向けてこなかった自分たちの身近な環境ともしなやかに連帯できる気がする（「自分ごと」として捉えられるようになる）。伝統文化も自然環境も現代的な社会問題も「私とのつながっている」感覚を持てるのだ。「四次元」は「無限」とも言い換えられるが、私たちのプランも遥かなかなたとつながる可能性に満ちた「浪漫」あふれる旅行になったと思う。

3　お世話になった方々